

平安京右京三条二坊十五町・三坊三町跡

2005年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

平安京右京三条二坊十五町・三坊三町跡

2005年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都には数多くの有形無形の文化財が今も生きています。それら各々の歴史は長く多岐にわたり、京都の文化の重厚さを物語っています。こうした中、地中に埋もれた文化財（遺跡）は今は失われた京都の姿を浮かび上がらせてくれます。それは、平安京建設以来1200年以上にわたる都市の営みやその周りに広がる姿をも再現してくれます。一つ一つの発掘調査からわかってくる事実もさることながら、その積み重ねによってより広範囲な地域の動向も理解できることにつながります。

財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、こうした成果を現地説明会や写真展、考古資料館での展示、ホームページでの情報発信などを通じ広く公開することで、市民の皆様へ京都の歴史像をより実態的に理解していただけるよう取り組んでいます。また、小学校などでの地域学習への成果の活用も、遺物の展示や体験授業を通じて実施しています。今後、さらに埋蔵文化財の発掘調査成果の活用を図っていきたいと願っています。

研究所では、平成13年度より一つ一つの発掘調査について報告書を発刊し、その成果を公開しています。調査面積が十数平方メートルから、数千平方メートルにおよぶ規模の違いはありますが、こうした報告書の積み重ねによって各地域の歴史がより広く深く理解できることとなります。

このたび高速鉄道東西線出入口工事に伴う平安京跡の発掘調査成果を報告いたします。本報告書の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示たまわりますようお願い申し上げます。

末尾ではありますが、当調査に際して御協力と御支援をたまわりました多くの関係者各位に厚くお礼と感謝を申し上げます。

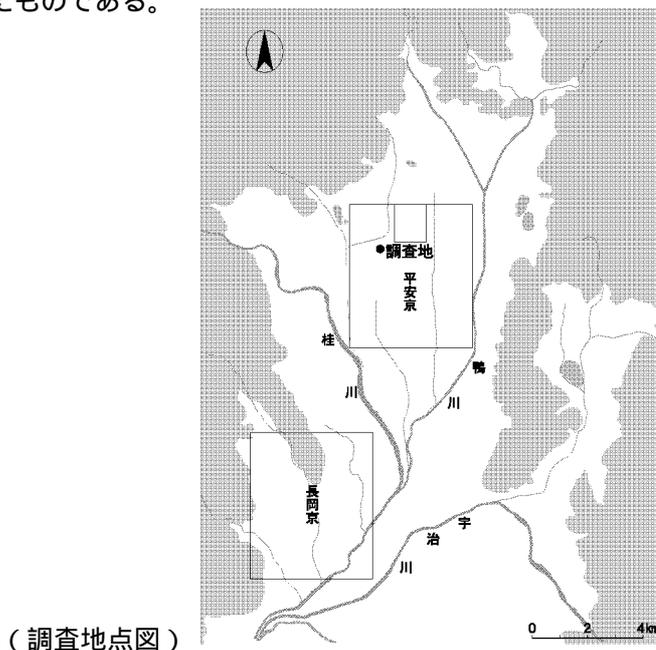
平成17年10月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所 長 川 上 貢

例 言

- 1 遺 跡 名 平安京右京三条二坊十五町・三坊三町跡
- 2 調査所在地 京都市中京区西ノ京東中合町・桑原町
- 3 委 託 者 京都市 代表者 京都市公営企業管理者 交通局長 島田與三右衛門
- 4 調査期間 2005年8月8日～2005年9月2日
- 5 調査面積 約88.2m²
- 6 調査担当者 卜田健司
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「山ノ内」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 日本測地系（改正前）平面直角座標系（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用基準点 京都市が設置した京都市遺跡発掘調査基準点（一級基準点）を使用した。
- 11 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 12 遺構番号 調査区ごとに通し番号を付し、遺構種類を前に付けた。
- 13 遺物番号 通し番号を付し、写真番号も同一とした。
- 14 掲載写真 村井伸也・幸明綾子
- 15 基準点測量 宮原健吾
- 16 本書作成 卜田健司
- 17 編集・調整 児玉光世
- 18 本書は、2001年度から発刊してきた『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報』を、今年度より書名変更したものである。



目 次

1. 調査経過	1
2. 遺 構	3
(1) 1区の遺構	3
(2) 2区の遺構	4
3. 遺 物	8
4. ま と め	10

図 版 目 次

図版 1 遺構	1 1区全景(東から)
	2 2区全景(西から)
図版 2 遺構・遺物	1 2区南壁東半
	2 出土土器

挿 図 目 次

図 1 調査位置図(1:2,500)	1
図 2 周辺の調査位置図(1:5,000)	2
図 3 調査区配置図(1:500)	3
図 4 2区調査前全景(東から)	4
図 5 2区作業風景(東から)	4
図 6 2区拡張区南壁断面図(1:50)	4
図 7 1区遺構実測図(1:50)	5
図 8 2区遺構実測図(1:100)	6
図 9 今回調査および1998年調査遺構位置図(1:400)	7
図 10 土器実測図(1:4)	9

表 目 次

表 1	周辺の調査一覧表	2
表 2	遺構概要表	8
表 3	遺物概要表	9

平安京右京三条二坊十五町・三坊三町跡

1. 調査経過

京都市中京区西ノ京東中合町に所在する京都市立西京高等学校（以下、1区と呼ぶ）および京区西ノ京桑原町島津製作所（以下、2区と呼ぶ）敷地内において、京都市営地下鉄東西線西大路駅出入口の新築・整備事業工事が計画された。1区は平安京右京三条二坊十五町、2区は平安京右京三条三坊三町にあたることから、京都市埋蔵文化財調査センターの指導により、発掘調査を実施することとなった。

1区は右京三条二坊十五町の南西隅に位置する。2区は右京三条三坊三町の北東隅にあたり、2区の東端で道祖大路西側溝、北端で三条坊門小路南側溝の遺構が想定された。

2005年8月8日から調査を開始し、8月24日に2区、8月29日に1区の全景写真撮影を実施し、調査は2005年9月2日にすべての作業を終了した。

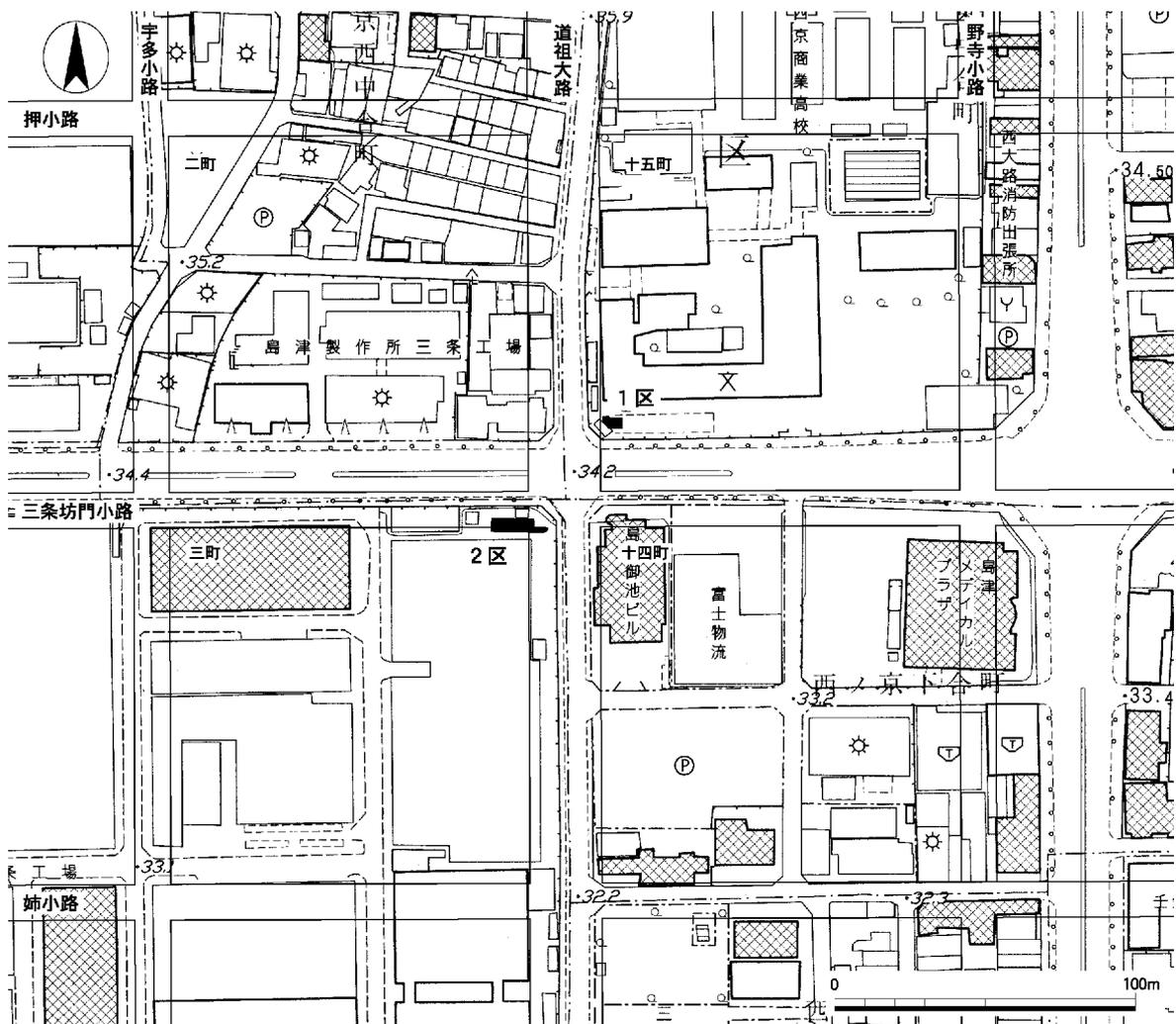


図1 調査位置図(1:2,500)

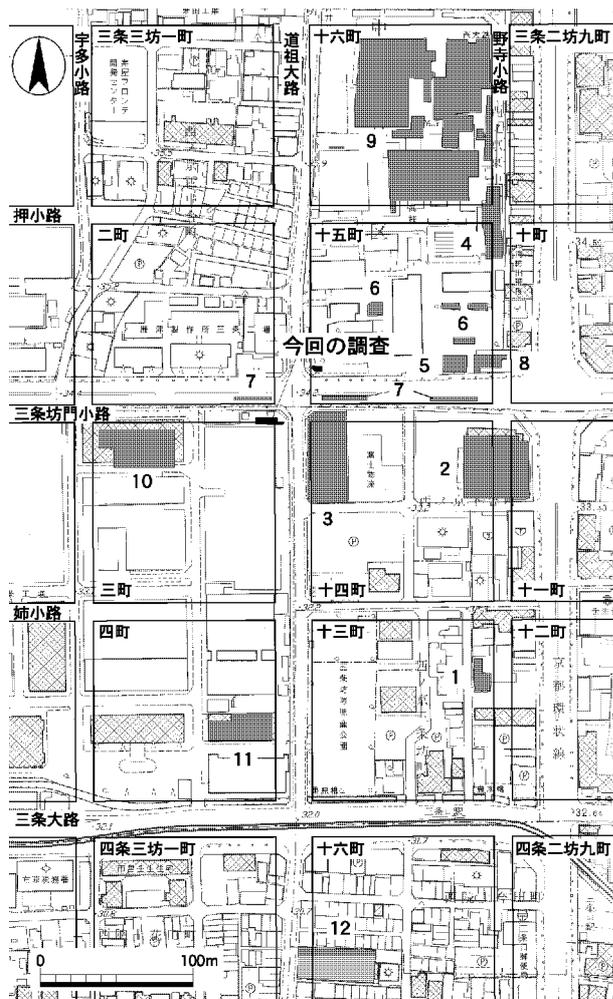


図2 周辺の調査位置図(1:5,000)

今回の発掘調査は、右京三條二坊十五町で6例目、三條三坊三町で2例目となる(図2、表1参照)。

三條二坊十四町では、1998年の発掘調査(図2-3)で、三條坊門小路南側溝、9世紀中頃以降河川化する道祖大路、平安時代前期から中期の建物・門・柵・井戸などを検出している。

同十六町では、1999・2000年の発掘調査(図2-9)で、平安時代の建物群と庭園・泉など、1町規模の邸宅を検出している。

三條三坊四町では、1981年の発掘調査(図2-11)で、平安時代前期の溝・道祖大路・土壌・建物・柱穴などを検出している。

四條二坊十六町では、1988年の発掘調査(図2-12)で、平安時代前期から後期の道祖川・道祖大路東築地内溝・区画溝・建物・井戸・祭祀遺構・石組遺構・石敷遺構・土壌、室町時代の道祖川・耕作溝・土壌などを検出している。

表1 周辺の調査一覧表

番号	調査地区	所在地	調査期間	調査概要	備考
1	三條二坊十三町	中京区西ノ京三條坊町14	2005.2.22~ 2005.3.8	鎌倉~室町時代の柱穴、土取り穴などを検出。	註1
2	三條二坊十一・十四町	中京区西ノ京下合町11	1989.11.30~ 1990.2.23	三條坊門小路南側溝、野寺小路東西両側溝、柵2条、川跡を検出。	註2
3	三條二坊十四町	中京区西ノ京下合町地内	1998.3.19~ 1998.6.26	三條坊門小路南側溝、平安時代の建物8棟、門2棟、柵8条、井戸3基と道祖大路川などを検出。	註3
4	三條二坊十五・十六町	中京区西ノ京東中合町1 市立西京商業高等学校	1981.7.3~ 1981.7.31	押小路両側溝、建物1棟、井戸1基、中世の野寺小路川などを検出。	註4
5	三條二坊十五町	中京区西ノ京東中合町1 市立西京商業高等学校	1987.5.18~ 1987.6.12	平安時代の溝4条、柱穴などを検出。他に中世の井戸がある。	註5
6	三條二坊十五町	中京区西ノ京東中合町1 市立西京商業高等学校	2001.1.29~ 2001.3.14	平安時代の池、土壌、柵などを検出。	註6
7	三條二坊十五町	中京区西ノ京東中合町	2001.10.22~ 2001.11.29	平安時代前期の土壌、井戸、柱穴を検出。他に室町時代の溝がある。	註7
8	三條二坊十五町	中京区西ノ京東中合町	2003.11.4~ 2003.12.26	平安時代の建物、溝、柵、野寺小路川などを検出。	註8
9	三條二坊十六町	中京区西ノ京東中合町1 市立西京商業高等学校	1999.7.21~ 2000.8.30	平安時代の建物群と庭園・泉など、1町規模の邸宅を検出。	註9
10	三條三坊三町	中京区西ノ京桑原町1	1980.4.10~ 1980.7.15	古墳時代の溝2条、平安時代中期の掘立建物3棟、井戸1基を検出。	註10
11	三條三坊四町	中京区西ノ京桑原町1	1981.8.6~ 1981.10.5	平安時代前期の溝3条、道祖大路、柱跡29基、土壌2基、落込3基などを検出。	註11
12	四條二坊十六町	右京区西院西今田町10	1988.5.06~ 1988.8.16	平安時代前期~後期の道祖大路(川)、宅地内溝、区画溝、建物12棟以上、井戸などを検出。	註12

2. 遺構

(1) 1区の遺構

1区の基本層序は、現地表面より - 1.0mが盛土層、 - 1.0 ~ - 1.8mが中世から近世の耕作土層、 - 1.8mで黄褐色泥砂層の地山となる。遺構は地山面で検出した。検出した遺構は、溝が3条あり、溝1・溝2・溝4とした。

溝1 幅約1.1m、深さは約0.4m、南北約1.4mにわたり検出した。埋土は黒褐色泥土である。溝の西肩は、2段になっている。溝心は道祖大路東築地心推定ラインより東へ2.3mの所にあり、道祖大路東築地内溝と考えられる。

溝2 幅約1.1m、深さ約0.2m、南北約1.8mにわたり検出した。埋土は黒褐色泥土である。調査地の北で、やや東に傾いている。溝底部は流水によってできた起伏がみられる。

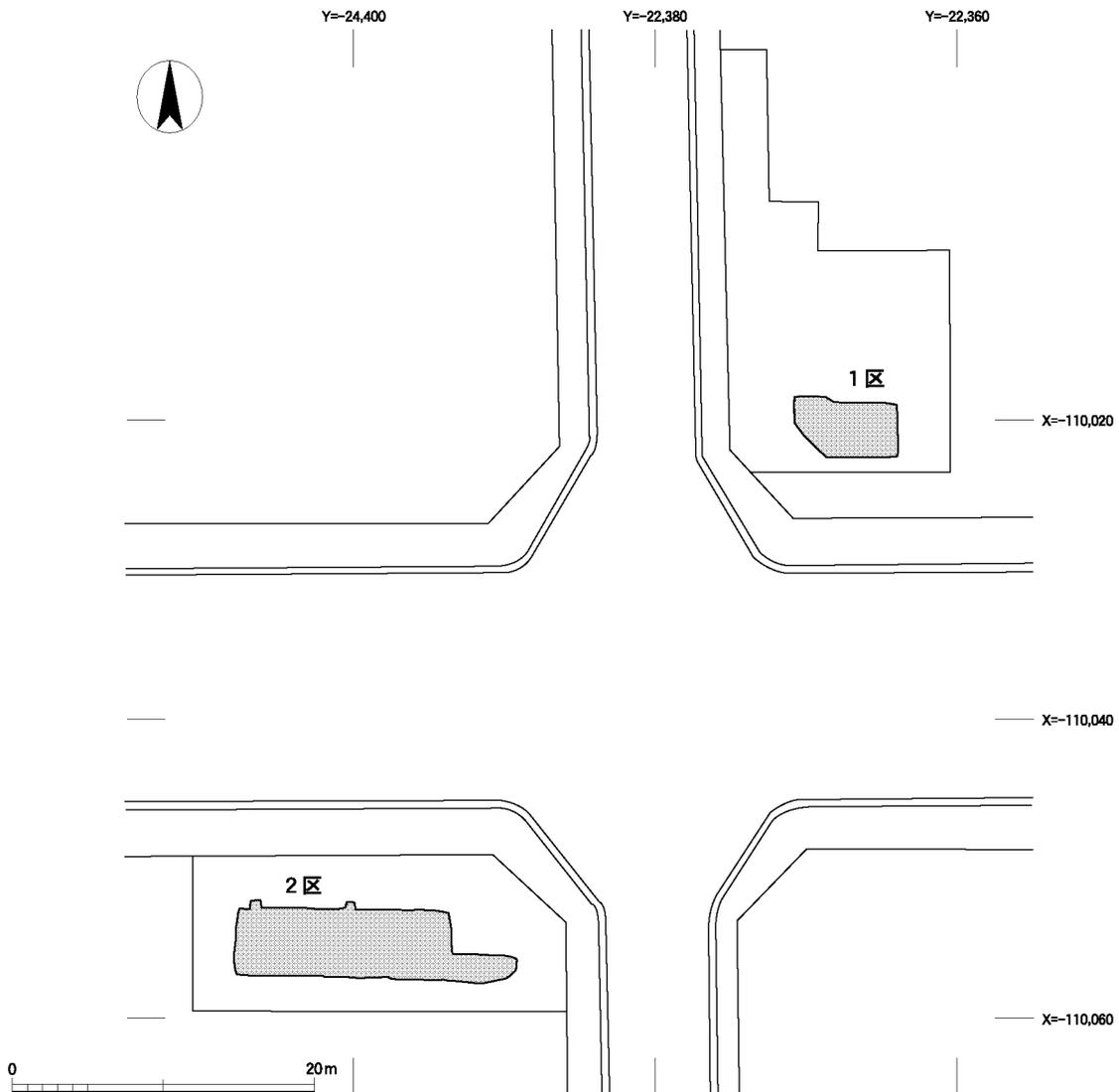


図3 調査区配置図(1:500)



図4 2区調査前全景（東から）



図5 2区作業風景（東から）

溝4 幅約0.4m、深さ約0.3m、南北約1.5mにわたり検出した。埋土は黒褐色泥土である。北端には高まりがみられる。

(2) 2区の遺構

2区の基本層序は、現地表面より - 0.5mが盛土層、 - 0.5 ~ - 1.0mが中世から近世の耕作土層、 - 1.0mで黄褐色砂礫層の地山となる。遺構は地山面で検出した。検出した遺構は、中世から近世の小溝群と平安時代の2条の溝と川である。

溝25 南北溝で、調査区北端で幅1.5m、深さ0.3mある。南北約4mにわたり検出した。東肩は調査区では検出されず、調査終了時に行った東側の断ち割り調査で、幅約2.3mであることを確認した。埋土は黒褐色砂泥層である。北壁断面では5・14~16層、南壁断面では1~4層が対応する。南壁断面の5・6層は、整地層と考えられる。この溝は道祖大路西築地心推定ライン上にあるが、近隣の調査（図2-11）で検出した宅地の内溝心から東へ約3mの所にあることから道祖大路西側溝の可能性を示している。

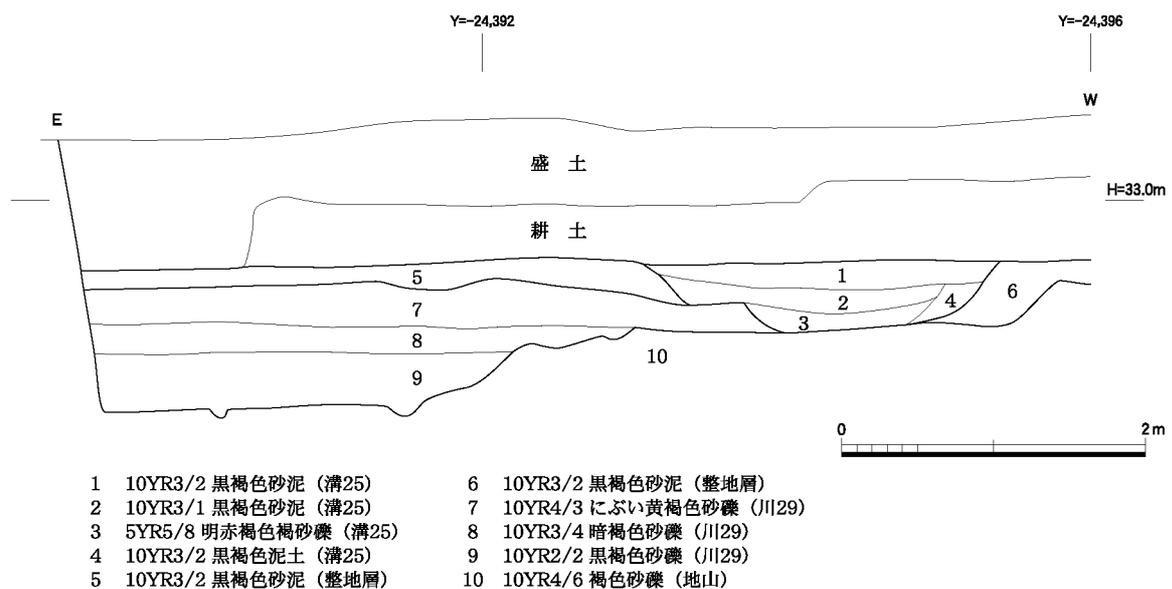
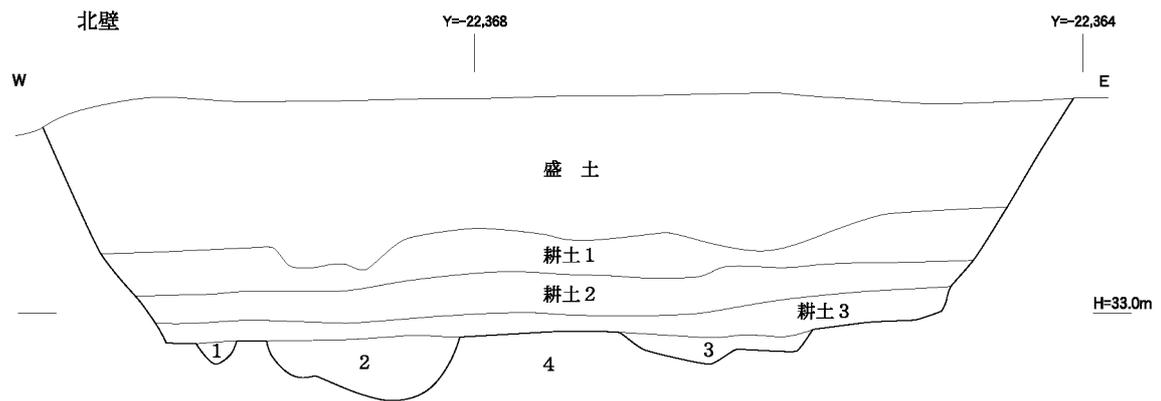
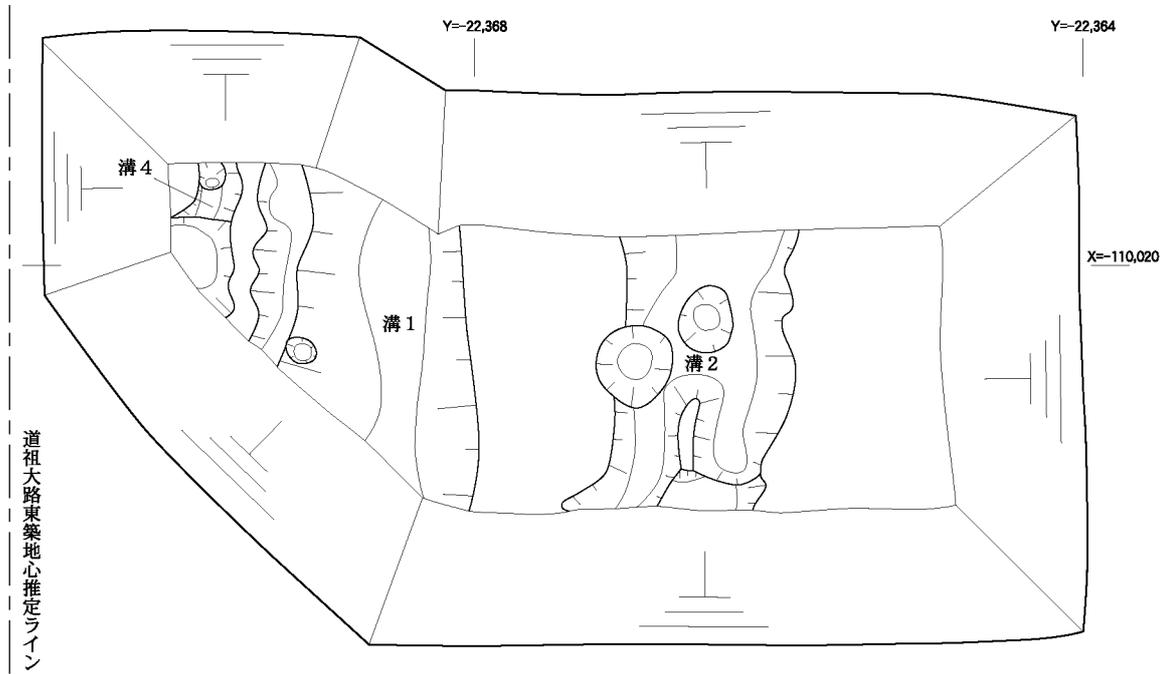


図6 2区拡張区南壁断面図（1：50）



- 1 10YR3/1 黒褐色泥土 (溝4)
- 2 10YR2/3 黒褐色泥土 (溝1)
- 3 10YR3/1 黒褐色泥土 (溝2)
- 4 2.5Y5/3 黄褐色泥砂 (地山)



図7 1区遺構実測図(1:50)

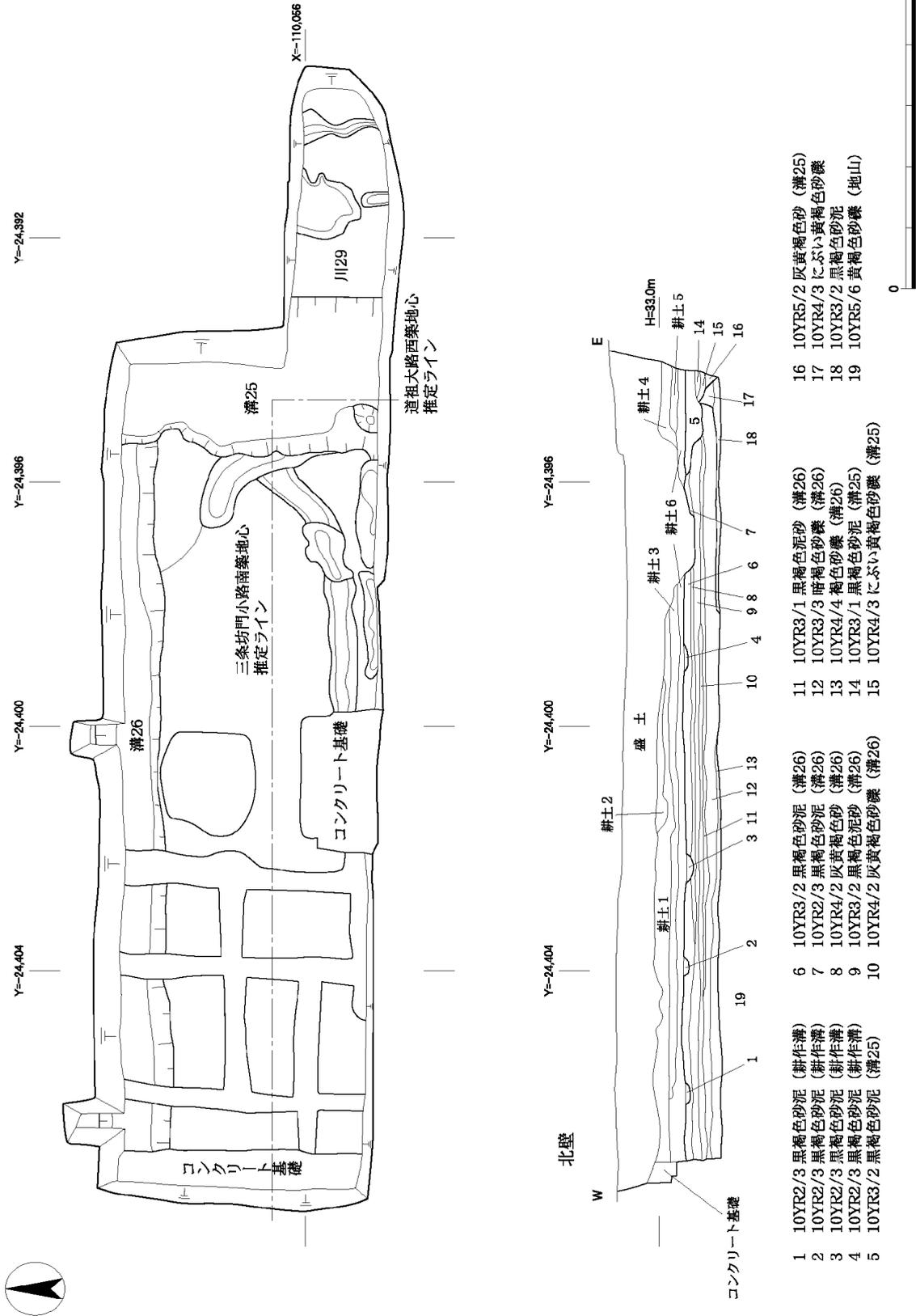


図8 2区遺構実測図(1:100)

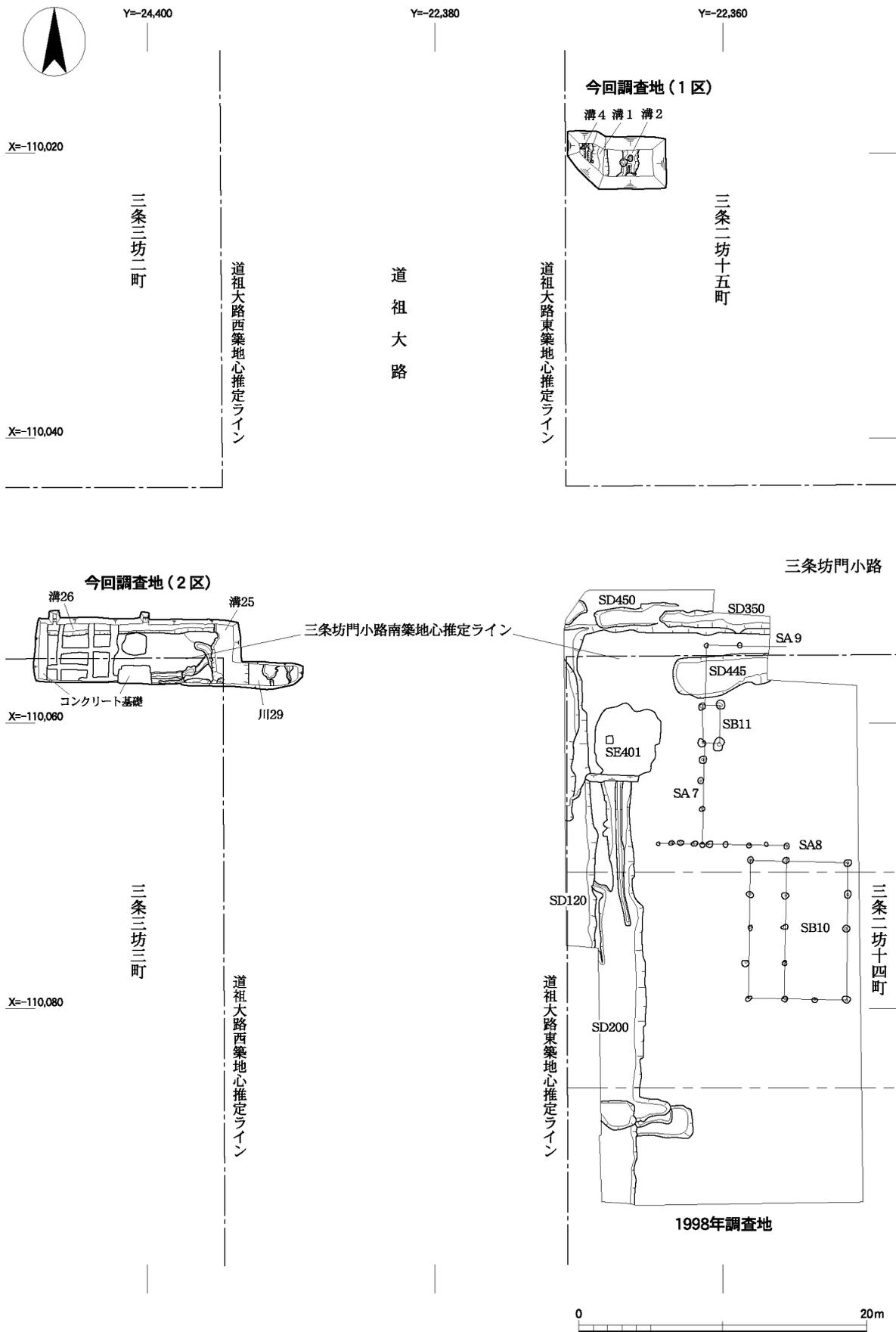


図9 今回調査および1998年調査遺構位置図 (1 : 400)

表2 遺構概要表

時代	遺構	
	1区	2区
平安時代前期	溝1（道祖大路東築地内溝）	溝26（三条坊門小路南側溝）、川29
平安時代中期	溝2、溝4	溝25（道祖大路西側溝）

川29 幅約6.5m以上で、深さは検出した部分は0.3～0.8mである。南北約4mにわたり確認した。底部は流れの侵食による凹凸がみられる。川の堆積層は、北壁断面では溝25・溝26のためになく、南壁断面では7～9層になる。

溝26 東西溝で、幅1.0m、深さ約0.5mを、東西約11mにわたり検出した。埋土は、大別して上から順に黒褐色砂泥（6・7層）、灰黄褐色砂（8層）、黒褐色泥砂（9層）、灰黄褐色砂礫（10層）、黒褐色泥砂（11層）、暗褐色砂礫（12層）、褐色砂礫（13層）の堆積である。その層に切られる形のにぶい黄灰褐色砂礫（17層）と最下部の黒褐色砂泥（18層）は、検出した範囲が狭く判断材料が少ないため、性格は不明。溝の南肩が三条坊門小路南築地心推定ラインから北へ約1.8mの所にあることや、近隣の調査（図2-3）の三条坊門小路南側溝の位置とほぼ合うことから三条坊門小路南側溝と考えられる。

3. 遺物

出土した遺物は、整理箱に7箱出土している。その内訳は土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、黒色土器などである。遺物は磨滅した小片が多く、上流から流されてきたものと思われる。須恵器は大半が甕の胴部である。

川29出土土器（図10-1・2）

整理箱で1箱出土している。土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器がある。

緑釉陶器皿（1） 口径15.0cm、器高1.9cm。円盤状の高台を持つ。体部は浅く、口縁端部は外反し丸くおさめる。内面ナデ後ミガキ、外面ケズリ後ミガキ、口縁部のミガキは粗い。底部は全面に施釉している。京都産と思われる。

灰釉陶器椀（2） 底部径9.0cmの小片。八の字状高台を貼り付ける。底部内外面ナデ。内外面の底部付近まで施釉。浸け掛けで施釉している。内面に重ね焼痕がある。

溝25出土土器（図10-3・4）

整理箱で1箱出土している。土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器がある。

灰釉陶器椀（3） 底部径7.2cm。断面三日月状の高台を貼り付ける。底部内外面に粗いナデ、高台外面ケズリがある。浸け掛けで施釉している。

緑釉陶器椀（4） 底部径7.0cmの小片。高台は段が付く。体部内外面ナデ。全面に施釉する。釉色は濃い緑を示す。胎土は赤い。近江産の可能性はある。

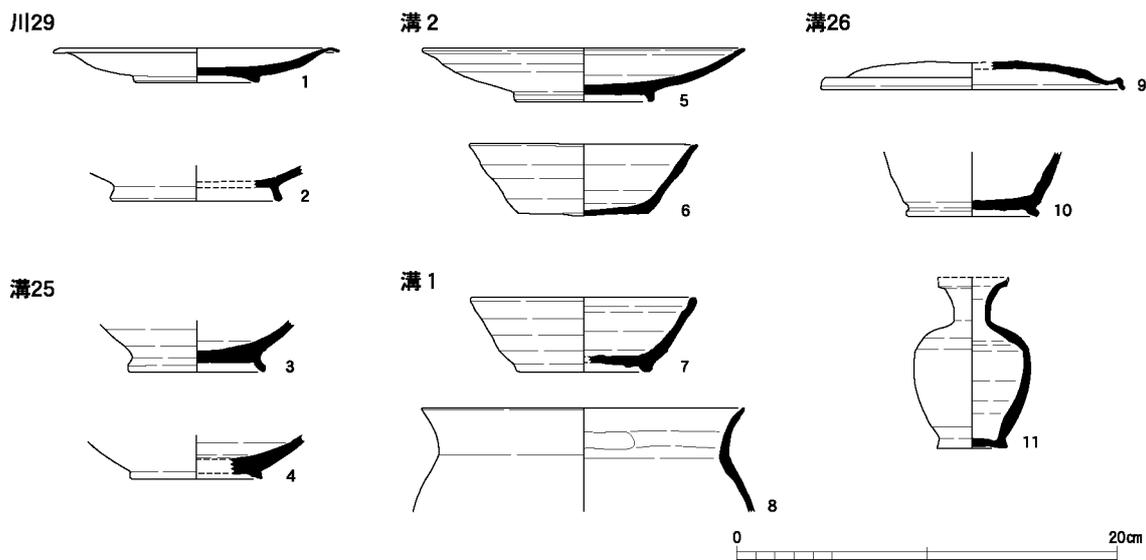


図10 土器実測図（1：4）

溝2出土土器（図10 - 5・6）

整理箱で1箱出土している。土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器がある。

緑釉陶器皿（5） 口径17.0cm、器高2.8cm。削り出しの輪高台を持つ。内面ミガキ、外面ナデ。全面に施釉。京都産と思われる。

須恵器杯（6） 口径12.0cm、器高3.8cm。高台は付かない。内面はナデ、体部外面はナデ、底部外面の中心はヘラ切り痕を残す。底部はケズリがある。

溝1出土土器（図10 - 7・8）

整理箱で1箱出土している。土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器がある。

須恵器杯（7） 口径12.0cm、器高3.9cm。浅い輪高台を持つ。内面から外面体部までナデ、外面の高台付近はケズリ調整がある。

黒色土器甕（8） 口径19.0cm、器高は6.2cm以上の小片。内面を黒色化する。体部内面はケズリ、口縁部ナデ、内面の一部にミガキを施す。外面は煤が付着する。

溝26出土土器（図10 - 9～11）

整理箱で1箱出土している。土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器がある。

表3 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
平安時代前期	土師器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器・黒色土器など	3箱	須恵器5点、緑釉陶器2点、黒色土器1点	3箱	0箱
平安時代中期	土師器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器など	3箱	緑釉陶器1点、灰釉陶器2点	2箱	0箱
中世	土師器など	1箱		0箱	1箱
合計		7箱	11点（1箱）	5箱	1箱

須恵器蓋（9） 体部から口縁部の破片である。径16.0cm、器高1.4cm。口縁近くを薄くし、端は丸めて下方に傾けておさめる。全体に磨滅が激しい。

須恵器壺（10） 底部の破片である。径7.0cm、器高3.4cm以上ある。内面ナデ、外面ケズリ、底部ヘラ切り痕を残す。

須恵器壺（11） 完形に近い。口径3.6cm、器高9.0cm。内面ナデ、外面ナデ、底部外面糸切り痕を残す。

京都¹³⁾ 期¹³⁾のものは（1・5）などがある。しかし、その他は 期古～ 期中までがほとんどである。溝1（道祖大路東築地内溝）や溝26（三条坊門小路南側溝）の遺物は、9世紀後半～10世紀までにおさまる。川29・溝2からの遺物には、 期新頃の遺物（1）などが含まれており、他の溝より古い様相を示している。

溝25（道祖大路西側溝）の遺物は、 期古・中に相当し、10世紀前半代につくられた様相を示している。

4. ま と め

今回の調査地の2区には、道祖大路西築地心推定ラインと三条坊門小路南築地心推定ラインが通り、大路・小路がまじわる所に位置し、1区では、調査地のすぐ西側に道祖大路東築地心推定ラインが通る。調査の結果、1区では溝1（道祖大路東築地内溝）、2区では南北に流れる川29、溝25（道祖大路西側溝）、溝26（三条坊門小路南側溝）などを検出した。

以下に、埋土の堆積状況などからそれぞれの遺構の関係を整理してみた。

1区の溝1の中心は、道祖大路東築地心推定ラインから東へ約2.3mの所にあり、この溝は道祖大路東築地内溝と考えられる。

2区の東側の北では、道祖大路西側溝と三条坊門小路がまじわり、南では道祖大路西側溝と川が同じ方向に流れている状況なので、埋土の堆積状況はかなり違う。このため、北壁断面と南壁断面を断割り、土層観察を行い遺構の関係を整理した。

遺構の埋没時期の古いものから順に述べると、川29は9世紀後半に埋没している。この川は、道祖大路の路面部と西側溝・築地が推定される位置にあり、平安京造営当初に、道祖大路路面・西側溝・築地が存在していたかは不明である。

溝26（三条坊門小路南側溝）の埋没時期は、9世紀後半と考えられる。この時期は、道祖大路をはさんだ東側の三条坊門小路南側溝（図9 - SD350）の埋没時期と同じである。一時期、道祖大路西側溝と合流していた可能性が高い。

溝25（道祖大路西側溝）は、10世紀に埋没しているが、それまでに数回にわたり改修されているのが、北壁・南壁の埋土の堆積状況からわかった。この側溝が10世紀に埋没する直前には、溝幅が広くなった形で、三条坊門小路を横断していたと考えられる。9世紀後半以前の一時期には、三条坊門小路を横断せずに、合流していたことが土層観察の結果わかった。

註

- 1) 山口 眞「平安京右京三条二坊十三町跡」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2004-19 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2005年
- 2) 木下保明「右京三条二坊(2)」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1994年
- 3) 南 孝雄「平安京右京三条二坊」『平成10年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 2000年
- 4) 辻 純一「右京三条二坊(2)」『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要(発掘調査編)』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1983年
- 5) 本 弥八郎「平安京右京三条二坊」『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1991年
- 6) 鈴木廣司・網 伸也『平安京右京三条二坊十五・十六町 - 「齋宮」の邸宅跡 - 』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第21冊 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2002年
- 7) 百瀬正恒『平安京右京三条二坊十五町・三坊二町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2001-6 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2002年
- 8) 津々池惣一『平安京右京三条二坊十五町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2003-8 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2004年
- 9) 註6)に同じ
- 10) 平尾政幸『平安京右京三条三坊』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第10冊 (財)京都市埋蔵文化財研究所 1990年
- 11) 註10)に同じ
- 12) 辻 裕司「平安京右京四条二坊」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1993年
- 13) 小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第3号 (財)京都市埋蔵文化財研究所 1996年

圖 版

報 告 書 抄 録

ふりがな	へいあんきょううきょうさんじょうにぼうじゅうごちょう・さんぼうさんちょうあと							
書名	平安京右京三条二坊十五町・三坊三町跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2005-5							
編著者名	卜田健司							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2005年10月27日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょううきょう 平安京右京 さんじょうにぼう 三条二坊 じゅうごちょう・ 十五町・ さんぼうさんちょうあと 三坊三町跡	きょうとしなかぎょうく 京都市中京区 にしきょうひがしなかあい 西ノ京東中合 ちょう・くわばらちょう 町・桑原町	26100		35度 00分 28秒	135度 43分 59秒	2005年8月 8日～2005 年9月2日	88.2㎡	高速鉄道 東西線出 入口工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
平安京右京 三条二坊 十五町・ 三坊三町跡	都城跡	平安時代前期	道祖大路東築地内 溝、三条坊門小路 南側溝、川	土師器・須恵器・緑釉 陶器・灰釉陶器・黒色 土器				
		平安時代中期	道祖大路西側溝、 溝	土師器・須恵器・緑釉 陶器・灰釉陶器				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2005-5
平安京右京三条二坊十五町・三坊三町跡

発行日 2005年10月27日

編集発行 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 075-256-0961